

## 学校適正配置『稲毛海岸・高洲地区』地元説明会報告

### 1 日時・場所・参加人数

#### (1) 第1回

- ア 日時 2月1日(金) 19時~21時25分
- イ 場所 高洲第二中学校 体育館
- ウ 参加人数 地域住民及び保護者 94人

#### (2) 第2回

- ア 日時 2月2日(土) 10時~12時10分
- イ 場所 稲浜中学校 体育館
- ウ 参加人数 地域住民及び保護者 161人

### 2 質疑応答内容要旨

#### (1) 第1回

- Q 説明会から地元代表協議会、統合準備会に進む期間はどれくらいか。
- A 説明会が第一歩であり、その後、地元代表協議会で具体的な協議を進めていく。地元代表協議会の目安は2年ほどとし、合意形成の後、統合準備会を設立する。その後、子どもたちの交流事業等も1年位は必要である。校舎の改修工事についても最低でも2年はかかる。
- Q 7年位かかるということか。
- A 校舎の改修等を統合準備会と並行して行なう等をすれば、最速で4年後となる。
- Q 稲毛海岸・高洲地区の推計は何を基にしているのか。統合されれば、1学級あたりの子どもたちの数が増えてしまう。少人数での指導がのぞましいと思うがいかがか。
- A 推計は平成19年5月1日現在のものである。住民基本台帳を基にしており、住宅等の開発状況を考慮して加算している。稲毛海岸5丁目の公務員住宅跡地については、財務省が公務員宿舎として3分の1、残りを分譲する方針をとっている。この地区の学校適正配置の方向性については、平成25年度の推計を基にしているが、状況によっては大きく変わる可能性がある。1学級あたりの子どもたちの人数については、増える可能性はあるが、場合によっては減る可能性もある。真砂第五小では、33名で1学級という学年もある。現在の千葉市の平均としては、小学校は30名、中学校は34名程度となっている。
- Q 地域コミュニティで考えると、真砂と高洲で分かれている。草野水路で分けて、真砂と高洲とを分ける考え方はあるのか。
- A 第1次の学校適正配置の取り組みとして、真砂第五小と高洲第四小との統合の検討があった。その際、(高洲第四小学区と)近い所に稲浜小があるのに、なぜ検討しないのかという意見があった。学校区は青少年育成委員会としてのまとまりを持っている。自治会のコミュニティとの相違はあるが、子どもたちの教育環境の充実を図るために行っていることをご理解いただきたい。
- Q 自分は、昭和49年より真砂1丁目に住んでいる。30年経ったが、自分たち(の地区)は真砂という住民意識はある。現在、真砂1丁目の子どもたちが水路を越えて(高洲地区の中学校に)通っているのは違和感があり、真砂地区に真砂第五小も入れて検討してほしい。
- A 地域の方たちが学校を育ててきてくれたことはよくわかっている。今回の学校適正配置実

施方針の話し合いの枠組みについては、学校と地域コミュニティとの整合や、学校の配置と規模との両面から検討してきた。地域コミュニティを超えて考える必要もあるだろう。この地区分けは、話し合いのスタートとして決めたので、それぞれの意見を持ち寄って議論していきたい。

Q 地元代表協議会委員として保護者代表が入っているが、こういった形で参加するのか。地元代表協議会に教育委員会はどうかかわるのか。また、未就学児を持つ保護者の意見はどこで吸い上げるのか。

A 保護者代表は、保護者会やPTAの会長に入っていただきたい。地元代表協議会の委員としては、自治会の代表、保護者代表、学校評議員の代表を考えている。教育委員会はオブザーバーと事務局として協議に参加し、協議に必要な資料等を提供していく。未就学のお子さんをお持ちの方は、自治会を通して意見を吸い上げていきたい。

Q 地元代表協議会での話し合いは、統合を前提にして話し合っていくのか。また、いつまでに発足させるのか。

A 統合が前提ではなく、より良い教育環境整備のために話し合っていただく。学校を適正な規模にしていくことは必要なので、方向性を基に話し合っていただきたい。統合についての合意形成が得られれば、実現させていく。地元代表協議会の立ち上げは今年度中には行いたい。

Q 進行状況については、ホームページ等で公開してほしい。自分たちも意見を述べられる場を設定してくれれば、ぜひ参加したい。

A 今回の説明会や地元代表協議会については、議事要旨等をホームページで公開していく。千葉市のホームページから入っていただければよい。

Q 仮に統合した場合、災害があった場合はどうするのか。地域住民は避難所が無くなり、リスクを背負わなければならないと思うがいかがか。

A 仮に統合しても、跡施設は有効活用していくので引き続き避難場所として利用することも可能だろう。仮に売却した場合は、見直していくことになる。

Q 真砂第五小ができる前は、(真砂1丁目の子どもたちは)真砂第四小に通っていた。学校区だけが高洲と一緒にいるというしわ寄せが真砂1丁目にきており、市の行政計画がどうなっているのか不信感がある。公務員住宅跡地の再開発はまだ推定であり、真砂第三団地や稲毛海岸3丁目の団地の建て替えの話も聞く。真砂第五小を売却したらどうなるのか、(地域の状況をみながら)フレキシブルに対応してほしい。

A 地域コミュニティと学校区との関係については、十分考えていきたい。公務員住宅については千戸を予定している。他は未定だが、最大値として2千戸を推計に入れている。真砂第三団地についても、建て替え案が具体化してくれば推計に入れていく。

Q (高洲1丁目東自治会の)子どもたちは一番遠い所から通っている。学校は高洲第四小に通学しているが、避難場所については、広域避難所である稲浜小・中学校を避難場所として考えている。学校も通学校を選択できるようにしてほしい。説明会をこれだけで終わらせてほしくない。

A 地域全体の説明会は、各地域とも2回ずつとしたい。ただし、学校適正配置事業については、地域や保護者の方たちに周知を図り理解していただきたいので、地域単位での説明会については要請があれば行いたい。避難場所については見直していく必要があるだろう。第1次の取り組みと異なり、どこをどこと統合するのかということは決めていない。通学路の安全性や施設の状況等を考慮しながら決めていただきたい。

- Q 子どもたちにとってよりよい環境とは何か。イスを並べた子どもたちの気持ちを考えてほしい。資料も文字が小さくてわからないし、言っていることもわからない。一人ひとりに行き届いた教育が必要だと思うがいかがか。
- A (適正な規模の学校にしていくことにより)課題別の学習や習熟度別の学習などを展開できるよさがある。また、(中学校における)教科担任の適切な配置や部活動の充実等も図れる。
- Q 高洲第二中は、少人数でも成果を挙げている。部活動については顧問の教員を配置すればよい。市議会で無駄をなくすと言っているが、その一つとしか捉えられない。子どもたちは統廃合を望んではいない。(学校適正配置は重要なことなので)この説明会で終わらせてほしくない。
- A 教員配置については、国や県の基準として決まっている。現在の限られた状況で(より良い環境づくりに向けて)行うしかない。学校適正配置は、子どもたちに何を身につけさせなければいけないのか、将来を見据えて取り組んでいるものである。単学級では多くの人とかかわる機会を保障できない。小規模校でも、教員が子どもたちの指導を一生懸命行っておりよさもあるが、(適正規模にすることにより)教員も増え、複数の教員で子どもたちを見ていけることや習熟度別、グループ別の学習ができることなどの利点がある。教員も校務分掌を分担でき、子どもたちの指導に余裕を持つことができる。
- Q 学校の統廃合については、街づくりの観点からも考えてほしい。学校がなくなると、地域の会合もできない。地元代表協議会は、多様な考えを出し合う会にしてほしい。「教育は百年の計」、早計に決めてほしくない。
- A (学校適正配置については、)十分に議論して結論を出していきたい。街づくりの視点から考えていくことは大切である。学校の役割についても十分考えていく必要がある。跡施設の活用についても、地域の活性化につなげていきたい。学校の活性化が地域の活性化に結びついていくと考えている。
- Q (子どもたちの数が増え)再び学校を増設することになったらどうなるのか不安である。小規模校だとなぜいけないのかがわからない。説明会はこれで終わりなのか。自分たちはこの地域にこれからも住んでいく。十分な議論をしてほしい。
- A 担当は替わっても学校適正配置事業は(第1次の取り組みより)引き続き進めている。皆さんの意見を聞いて進めていきたい。小規模校のよさもあるが、より良い環境を目指して適正な規模にしていくことが必要だと考えている。
- Q 子どもたちのためのより良い環境とは何か。子どもの側から考える良い環境と大人の側から考える良い環境とは違うのではないか。
- A 未来に羽ばたく子どもたちに、互いにかかわり合う機会を与えていきたい。担任以外の教師の目で見えていくことや多くの教師や友達とのかかわりが子どもたちの可能性を広げていくと考えている。(私たち大人は子どもたちに対して)これからの社会で生きていくための資質や能力を、教育を通してさらに伸ばしていきたいと考えている。様々な刺激を受けながら、子どもたちは持っている力をさらに広げ、育っていくのではないか。
- Q もっと説明会が必要ではないのか。
- A 説明会は話し合いの取り掛かりであり、今後様々な意見や考えを議論していきたい。(地域や保護者会単位の)個別の説明会については、企画課に要請してほしい。
- Q 学校は、地域住民と保護者とで成り立っている。説明会をガス抜きで終わらせるのではなく、住民の気持ちを汲んでほしい。

A 今のようなご意見は大切である。地元代表協議会の中で十分話し合っていきたい。今日の説明会で出された意見は、地元代表協議会に引き継いでいきたい。

Q 高洲第四小学区には5つの自治会がある。どのように地元代表協議会を組織するのか。自治会が無い所はどうするのか。

A (地元代表協議会の)委員のうち、自治会については地区連絡協議会の会長さんに選出をお願いしたい。委員としては自治会の代表を考えている。地元代表協議会は、(話し合いができる規模として)20名位で組織したい。様々な意見や考えを持ち寄って話し合っていきたい。

Q 地元代表協議会を立ち上げる前に、もっと説明会を開いてほしい。

A 再度、説明会を開催する。また併せて、地域や保護者への個別の説明会の要請に応じていく。

## (2) 第2回

Q (今回の学校適正事業で)中学校を減らそうとしているのに、なぜ稲毛高等学校附属中学校を開校したのか。

A 子どもたちの多様なニーズに対応することや、稲毛高等学校の特色を生かした教育の機会を提供するため、設立した。高等学校改革との一環で、特色ある学校として設置したものである。

Q 統合した場合、1学級あたりの(児童生徒の)人数は増えるのか。地元代表協議会の話し合いで「統合しない」となったらどうするのか。

A 1学級あたりの(児童生徒の)人数については、増える場合もあるし、減る場合もある。基本的には現在の国の基準に基づいており、1学級の定員は小学校1・2年生と中学校1年生については38人、その他の学年は40人である。したがって、稲浜小のように現在十数人の場合は増えることになる。今年度の千葉市の1学級あたりの平均人数は小学校約30人、中学校約34人である。地元代表協議会では、まず地域の(学校規模や配置の)課題について、十分話し合っていた。

Q 統合ありきではなく、適正配置について検討するということが。その中で統合する方向が最善であるという形で話が進むのか。

A 統合が前提ではない。あくまでも統合の方向性を示しているので、まずこの方向で話し合いをしていただきたい。

Q 稲浜小はなくなって当然という言い方をされ、(稲浜小、稲浜中学校は)高洲第四小と高洲第二中に統合されるという話も聞く。稲浜小には子どもルームが無いなど不公平な感じがする。稲浜小は、広域避難所となっているが、それはどうなるのか。1学級あたりの(児童生徒の)人数が多くなるのに、なぜ統合するのか。

A (稲浜小が無くなるというのは)誤解である。どことどこを統合し、どこを新設校とするのかは、具体的には決まっていない。広域避難所については、もし統合した場合は学校の位置により見直す必要はあるだろう。教育活動の充実や円滑な学校運営のためには、ある程度の規模を持つ学校にしていくことは必要である。

Q この話し合いの枠組みの中で学校適正配置は検討されるのか。枠組みは変更することはあるのか。

A 話し合いの枠組みは、地域の学校の規模と配置を考慮し、基本的には2つの中学校区としている。しかし、すべてこの枠組みで行っていかうとは考えていない。(昨日の高洲第二中

学校での説明会でも、真砂1丁目の地域の方から)真砂地区の話し合いに加わりたいという意見があった。

Q 昨日の説明会で地元代表協議会の設立は見送るとなったが、再び発言させていただく。卒業生には母校への愛着がある。また、(今まで築いてきた)地域の輪が崩れてしまうのは嫌である。学区が広くなることにより、素行不良行為が増えると聞いた。警察との連携とはどのようなことなのか。(子どもたちにとって)小規模校で育つ不利なことは何か。

A (地元代表協議会設立を)見送るとは言っていない。十分に説明した後に設置する。統合しても学校の歴史は残る。花島小にはメモリアルルームを作る。学校が活性化することにより、地域の輪がより一層活性化することを期待している。美浜区の5地区については、通学距離はおよそ2kmとなっている。(子どもたちの通学の)安全確保は重要だと考えている。具体的には、安全施設の点検や安全マップの見直し等があるだろう。小規模校にもよさはある。よさを生かして、より一層の教育の充実を図りたい。

Q 地域が発展するためには、学校の存在は重要である。(メモリアルルームとして学校の)歴史を残せばよいという話でない。学校があればこそ、地域は発展できる。平成25年度の推計では、現状より(児童生徒数が)増えているのに、なぜ、今、統合なのか。建て替えの話も出ているので、今後増える可能性はある。学校をなくすのは簡単だが、造るのはたいへんである。施設・設備の充実も統廃合しなくてもできるだろう。教育の充実に(市の)予算を使ったほうがよい。教員は単純に2倍とにならないので、削減の方向である。自分の娘は小規模校だと不安だとは言っていないし、住民から(小規模校では)困るという声は出ているのか。

A 地域が学校を育ててくれていることは十分わかっているし、これからもお願いしたい。(児童生徒数は)一時的に増えるがその後減少する。長期的に考えれば(学校適正配置は)必要だろう。推計は、建て替え等が具体的な計画になったら見直して(学校適正配置を検討して)いく。(節減できる)予算を教育予算として活用していくことにより、教員配置等の教育の充実を考えていきたい。花島小への統合の際には、子どもたちへのアンケート調査や卒業式の寄せ書きに、統合してよかったという声が多かった。

統合する際には、教員の数は単純に2倍とはならないのは確かである。教員の給与は国と県で負担しており、教員の定数は法律で決められている。中学校の定数で言うと、(各学年1学級の)3学級だと7名の配置で、10教科あっても教科数分の教員を配置できない。

Q 今回の学校適正配置実施方針は綿密な計画の上で進められている。学校の統廃合は時代の流れで仕方が無いことだが、学校をつぶすということはたいへんなことである。一斉に、すべて一律にはできないだろう。不確定な要素がある地域は様子を見るという、柔軟性を持たせてほしい。跡地を有効に活用するというが、地域にふさわしい社会的、文化的、公共的なものに使ってほしい。住民の意見を十分に聞いてほしい。

A 学校適正配置については、地域の方たちと議論しながら、開発の状況を見極めながら慎重に進めていきたい。跡施設は、費用対効果を勘案して、街づくりの視点で活用を検討していきたい。

Q 特別支援学級についてはどのように考えているのか。特別支援学級に通う子どもたちは環境が変わると、なじむのにも時間がかかる。地元代表協議会については、もう少し説明をし、浸透してから立ち上げてほしい。通学距離が2kmというのは、1年生の子どもにとってはたいへんである。統合だけで、学校の活性化は図れるのか。IT等の活用により、現状でも子どもたち同士、教員同士の交流を広げ、情報を共有していくことができるのではないかと。

いろいろな観点で、中身の濃い学校適正配置を考えてほしい。

A 特別支援学級については現在高洲第四小にある。もし学校の位置が変わるのなら、事前のケアを十分に考えていきたい。もっと(学校適正配置実施方針の内容を)浸透させた上で話し合いを進めていくことを基本的には考えている。通学距離2kmは、(子どもたちにとり)負担になるとは考えている。しかし、緑区などでは4kmを越える距離を通学している子どもたちもいることを承知していただきたい。この地域の学校を小学校2校、中学校1校にすることは一つの提案である。十分議論しながら、子どもたちにとってよりよい環境づくりについて考えていきたい。

「統合だけが学校の活性化につながるものではない」ということはもっともである。しかし、子どもたち同士の切磋琢磨、教員同士の切磋琢磨が学校を活性化することにつながるだろう。総合的な学習の時間の活動や学校行事についても、互いに励まし合い、やり遂げる満足感を味わわせたい。中学校の部活動にしても、子どもたちが選択できる幅を広げていくことが必要だろう。同学年や同教科に複数の教員が配置できることにより、子どもたちを様々な視点で見えていくことができるし、学習活動等もダイナミックに展開できる。ITの活用も一つの方策である。ご意見を反映させていきたい。

Q (昨日の説明会では)地元代表協議会については、説明会で周知してから立ち上げるという話であった。4年前に高洲第四小と真砂第五小との統合の話が出たが、そのときに説明した教育委員会担当者は誰もいない。この先何年かかるかわからないが、地元の代表者だけで決めるのは不安である。自分たちは地域を守るために必死である。なぜ今、学校の統廃合なのか。財政的な面からなのか。政令指定都市の意味について教えてほしい。

A 具体的な議論は地元代表協議会で行いたいと考えている。教育委員会としては、第1次の取り組みの批判や課題を踏まえて第2次の実施方針を立てている。第二次学校適正検討委員会を設置、検討していただき、検討の結果についても教育だより等で知らせてきた。教育委員会は組織なので人は変わるが事業内容は引き継いで行っている。千葉市は財政的には危機的な状況であり、(改善に向けて)職員一丸となって取り組んでいきたい。政令市の規模については、自治法上は人口百万人である。

Q 百万人の税金を何に使っているのか疑問である。説明会をさらに開いてほしい。

Q まだ子どもはいないが学校が近いからマンションを購入した。どうしたらよいのか。

A 説明会は、今後も様々な形で、十分に行う方向で考えている。

Q 十分とは回数なのか。質疑は公開されるのか。

A 説明会は十分に行っていく。

Q 自分は自治会の代表をしている。学校適正配置は、重要なことなので、地元代表協議会には参加しなければならないと考えている。地元代表協議会に出席し、統廃合に賛成したら批判を受けるだろうし、自分たちの地域の学校は残したいので、地域同士の引っ張り合いになるだろう。現在の状況の中で統合を進めることが前提なら、会議には参加できない。

A (地域の学校適正配置を考えるための)話し合いの場を設定したい。代表の方たちの荷が重いことはわかるが、地域の皆様に支えてほしい。地元代表協議会の内容を各組織にフィードバックし、その結果を持ち寄ることを繰り返し、より良い学校適正配置を考えていきたい。第一ステップとして十分に説明し周知を図り、第二ステップとして地元代表協議会の中で具体的な協議を進める。今はまだ第一ステップの段階であると捉えている。よりよく知っていただくためには、地域や各団体での説明が必要であると考えている。再度、説明会を開催するし、併せて、地域や保護者への個別の説明会の要請にも応えていきたい。